

## 令和2年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和 2年 10月 30日

校番	067	学校名	廿日市西高等学校	校長氏名	田中 勲	全日制	本校
----	-----	-----	----------	------	------	-----	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	学校経営目標における達成目標、行動計画、評価(理由)について、各担当部ごとに具体的かつ客観時な分析に基づき、適切に設定されている。ただ、中間評価をされるのであれば、中間までにどのくらいの達成目標にするのか、1年を通じて目標をどうするのか、段階的な目標指数があれば計画が立てやすいのではと思う。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	行動計画に基づき、教務部(授業公開、改善等)、進路指導部(進路別ガイダンス、面談等)、生徒指導部(部活指導等)、総務部(HPによる情報公開等)の各担当部の進捗状況の評価が、昨年度の自己評価に比べ厳しく評価されており、適切に実施されている。ただ、上半期は生徒との学習活動がリモートでの授業がほとんどで評価は難しいと思う。学校再開後も、コロナ禍の中で学校行事も中止や変更があり、計画の進捗状況も大変だと思う。生徒にとって、行事の中止により、特に教室外での体験による学びができなかったのが残念である。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	「主体的・協働的・深い」学びを追求する授業の創造、社会で通用する人材の育成、生徒が自己実現を達成できる支援、開かれた学校づくりの推進、職場環境の整備等に沿って着実な取組が実施されていると理解できるが、より具体的な内容を可能な限り紹介してほしい。コロナ禍の状況の中、当初の計画の遅れがあると察するが、後半の指導(ICTを積極的に活用した授業実施と成果等)を期待したい。
評価結果の分析の適切さ	B	学校経営目標に沿って、評価項目を適切に設定して、定性的な分析が適切に行われている。なお、可能な範囲での定量的な分析を加えることにより、さらに客観的な評価が可能となり、改善方策の分析支援に繋がると考えられる。家庭学習時間の1日の平均の増加は、評価できるが、まだ家庭学習の習慣が定着していない生徒もあるとのことなので、しっかり取り組んでほしい。上半期の生徒の学習理解度が気になる。
今後の改善方策の適切さ	B	定性的な評価結果の分析に基づき、改善方策が適切に記述されている。定量的分析に基づく、より客観的な改善方策の取組(コロナ禍対策、ICT活用方策等を含む)を期待する。「ICT機器の充実が必要」との記載があるが、具体的にどのようなところが遅れているのか、まだ何が足りないのかを示してほしい。PTA・育てる会として、ICT環境構築のために、さらなる支援をしていきたい。上半期は長期の休校があり、遅刻者の状況が気になった。昨年に比べ微増の用だが、下半期も「遅刻ゼロキャンペーン」を実施し、遅刻ゼロクラスを増やしてほしい。
総合評価	B	上半期は、思いもよらぬコロナ禍で先生方も大変苦労されたと思う。そうした中、一気にICT機器の活用が叫ばれ、生徒の戸惑いもあるかと思う。学校内、家庭内両方での環境整備が求められるので、ICTを活用した授業改善等、新しい生活様式に基づいた学校経営目標を適切に設定するとともに、地域における教育機関として着実な取組をさらに期待する。また、昨年も中学生に向けての廿西アピールのため、ホームページの充実をお願いしたが、あまり改善されていない。例えば大会への表彰を「その他の活動」のみならず、その部のページにも反映するなど、さらなる改善を求む。